

各ワーキンググループでの議論の経過

7月17日 第1回 交通ワーキンググループ

(主な議題)

- ・現状と課題等
- ・交通ワーキングの進め方

(主な実施内容)

- ・現状と課題の共有と進め方の整理を実施

9月6日 第2回 交通ワーキンググループ

(主な議題)

- ・基本計画(交通面)の考え方(案)
- ・R6社会実験(案)の概要

(主な実施内容)

- ・道路再整備方針のベースと社会実験の内容を検討

10月10日 第3回 交通ワーキンググループ(書面開催)

(主な議題・主な実施内容)

- ・R6社会実験(案)に係る意見等への対応方針

7月24日 第1回 利活用ワーキンググループ

(主な議題)

- ・現状と課題等
- ・利活用ワーキングの進め方
- ・ゾーン分け

(主な実施内容)

現状と課題の共有と進め方の整理と検討を進める上でのゾーン分けを実施

9月24日 第2回 利活用ワーキンググループ

(主な議題)

- ・ゾーンコンセプト(たたき台)
- ・R6社会実験(案)の概要

(主な実施内容)

ゾーンごとのコンセプトと社会実験の内容を検討

(利活用ワーキンググループに係る意見)

- ✓ 道路空間を利活用して、どのように歩いて楽しいまち・商店街にしたいのか
- ✓ 利活用ワーキンググループでは、どのような交通の姿を目指すのか
- ✓ まず利活用ワーキンググループの方向性を踏まえて、交通について検討する必要がある

(その他の意見)

- ✓ 道路構造を先に決めようとする、だいたいうまくいかない
- ✓ 100年後を見据えたまちづくりをしたい
- ✓ 歩きづらい、狭い、危険、子育て世代が回遊しづらい等の声がある
- ✓ 時間帯により道路利用者の量や属性が異なり、夕方は若い世代の自転車が多い
- ✓ (定禅寺通等に比べ)自転車交通量が段違いに多く、バスとのすみわけができればいいモデルケースになるのではないか
- ✓ 平日の朝を避ければそれほど渋滞しないのではないか
- ✓ 道路空間再構成は手段で、目的である賑わいを地域に運んでくるのは公共交通
- ✓ 国交省が提唱する歩きたくなるまちづくりの前提は交通環境の改善
- ✓ 長町だけではない(公共交通で来街・経由する)地域の皆さんの意向を確認されたい
- ✓ 将来的にどういった商店街通りを目指すかと、交通のあり方とが、検討の両輪
- ✓ 道路構造と交通は別の議論であり、道路構造より先に交通のあり方を考えるべき
- ✓ 社会実験だけの先行にならぬよう 交通課題のクリアの場になるとよい
- ✓ 商店街と公共交通利用をつなげる取組みを今後検討いただきたい

目指すまちの姿・目指す通りの姿

- 歩道の活用により、歩いて楽しいを生み、その中で交流が生まれていく心躍るようなワクワク感を作っていこうというのがこの街の将来像

安全・安心

- 歩道空間がせまく、自転車が歩道に乗り上げ、危険
- 安全を確保しつつ、自転車の店への立ち寄りなど賑わい創出を図る

快適・滞在

- 座れる環境、居心地がいい環境が必要
- 商店街の街中で、子どもも遊んで楽しんで快適に1日過ごせるようにしたい
- 回遊するための駐車スペースの確保

賑わい・ワクワク

- 賑わいのために、利活用可能な空間を創出しなければならない
- 多様な主体が、やりたいと思ったことを長町で実現できるとよい

目指す通りの姿

歩いて楽しい 賑わいと交流が生まれる人中心の街並み

空間創出

利活用空間創出

歩行環境向上

現状

活用できる空間の不足



現行の車道の活用(再整備)

2車線化・自転車空間設置案をベースに道路空間の再整備方針を検討



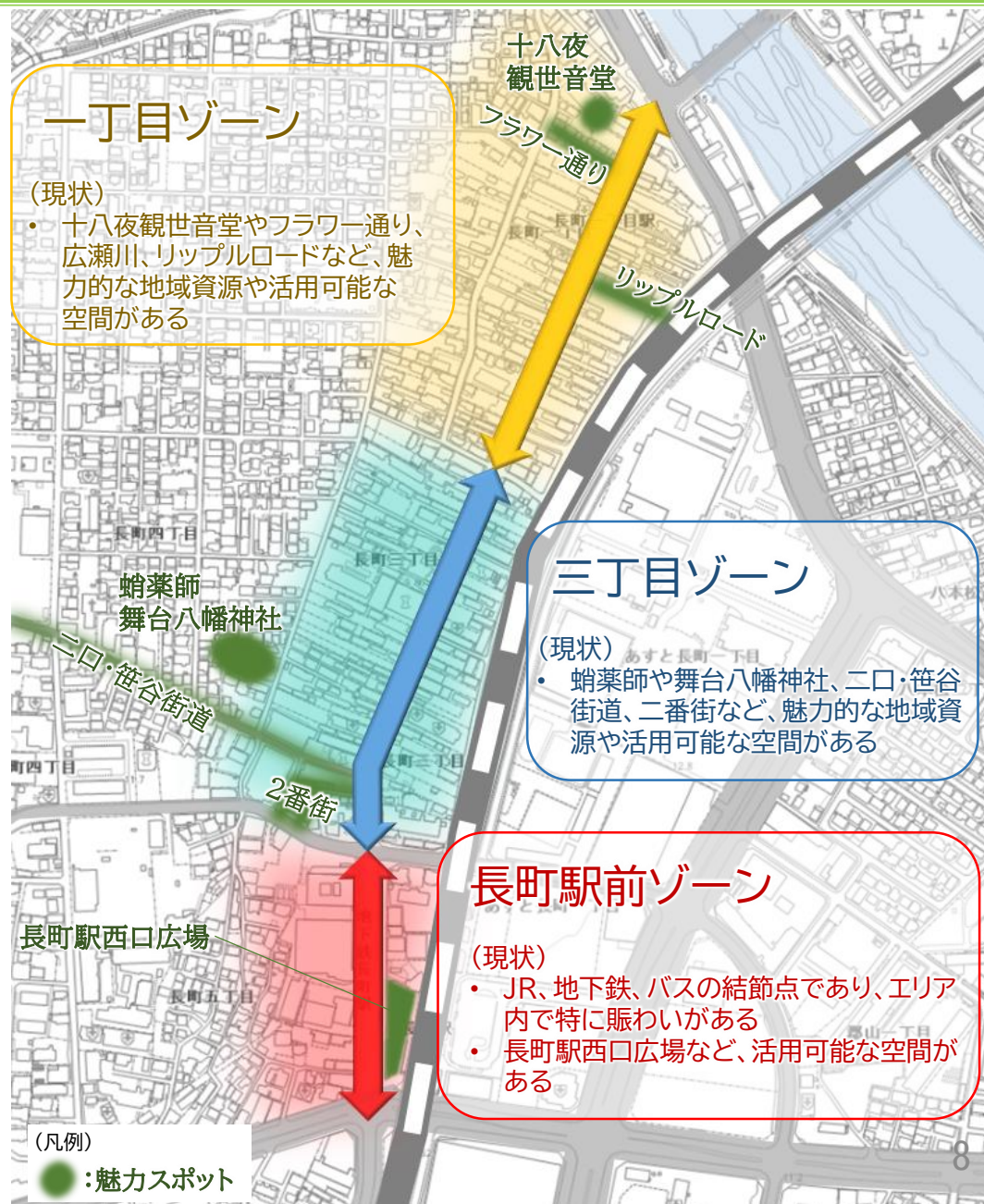
上記案を基に課題・論点等を整理していく

EX : 交通渋滞の抑制、バス・タクシー利用者・走行車の安全性の確保、
 運送車両荷捌きスペースの確保・安全性、緊急車両の通行、
 路上駐車車両の抑制、シェアモビリティ導入時の安全性の確保 など

- ◆ 約1kmと南北に長いエリアについて、各ゾーンがそれぞれ異なる魅力・資源・ポテンシャルを持っている。
- ◆ ゾーンごとの特性をさらに掘り下げ、それぞれの個性を生かした目指すべき方向性について、検討していく。
- ◆ ゾーンごとの目指すべき方向性について、必要に応じてゾーン数や分け方の見直し、魅力を発信するためのゾーン名称等も含め、検討を進める。

(検討の方向性の例)

- ・ 歩行者、自転車、自動車の動線分離
- ・ ベンチやテーブル、植栽の設置など、くつろぎの空間創出
- ・ 長町駅西口広場の一部芝生化など、既存施設の滞在性向上
- ・ シェアリングモビリティの活用など、回遊性向上
- ・ 長町駅西口広場等の公共空間のイベント活用
- ・ 空き店舗・空き地の活用などによる賑わいの創出
- ・ 既存資源の活用、長町らしさの創出





- リップルロードでは住民に身近なイベントが開かれ、地域のふれあいを育む
- 地下鉄長町一丁目駅を利用する通学・通勤利用者も思わず立ち寄りたくなる交流のまち

空き家やワゴンショップを
利活用したチャレンジ
ショップ等、出店に挑戦し
やすい環境

利活用ワーキンググループでの主な意見
【一丁目ゾーン】

- 朝夕の人通りが多い時間帯の仕掛けが必要
- スーパーもあり、日中は子連れの家族も集まりやすい雰囲気がある
- 歴史やふれあいを感じられる店舗があり、そこで子どもに買い物をさせることで、商店街の中で子どもを育てたい

食べ歩きやテイクアウト
飲食を楽しめる

通学・通勤時間帯でも快適
に移動できる、十分な歩行
空間

気軽に活用できる路上の
小さなイベントスペース



- 3つのゾーンの中心に位置し、一丁目ゾーンと長町駅前ゾーンをつなぐ要所
- 快適な滞在ができる、落ち着いた空間
- 笹谷街道や蛸薬師、2番街など、一本脇道に入る楽しみも豊富

利活用ワーキンググループでの主な意見
【三丁目ゾーン】

- 笹谷街道、蛸薬師等、裏道の魅力に長町らしさがある
- 付近に小学校から大学まで各種学校があり、笹谷街道を通る学生が多いため、学生に着目した特徴づけもよい
- 一丁目まで人が歩くためには、三丁目で何をやるかがポイントになる

誰もが心地良く利用できる
ベンチなど、歩道上の
くつろぎ空間

店先空間も活用した
ベンチ等の設置

歩道と一体的な空間の
開かれたテラス席

店先空間を活用しても
ゆとりを持って移動できる
快適な歩行空間



- バス、地下鉄、JRなど交通結節点で、イベントも盛んに開催される、賑わいにあふれたゾーン
- 長町駅西口広場は駅前の好立地で、長町駅前プラザや歩道空間との一体的な活用も考えられる、魅力的な公共空間

利活用ワーキンググループでの主な意見 【長町駅前ゾーン】

- 駅前には長町の玄関口なので、温かくお迎えする雰囲気を出し、長町らしく表現するのも面白い
- 駅前プラザについて、設置当時の目的を超えた新たな活用のあり方を検討していく必要がある

駅前の好立地を活用し
来街客も見込めるイベント

エリアの案内機能も持つ
開かれた公園施設

駅前広場と連携してイベント
活用できる歩道空間

シェアリングモビリティ
の充実により交通結節
点としての機能を強化

利活用ワーキンググループでの主な意見 【3ゾーンに共通する意見】

- ゾーン分けは地域の納得感が必要で、3商店街の区分と一致する分け方が違和感がないだろう
- 人情味、長町らしさをどう表現するかが課題
- 人情味を生かしたこれからの長町らしさを考えることで、将来像がより明確になる
- 商店街エリア内の回遊性だけでなく、あすと長町エリアとの回遊性も考えるべき
- 89ERSとの連携からも回遊性が生まれるため、魅力スポットにゼビオアリーナを追加すべき
- 長間駅前と逆転させ、一丁目を「賑わいと活力」としてもよいのでは
- 3ゾーンとも、時間帯や曜日によって使う人・使い方が変わる
- 消費者目線を重視すべき
- 市民がまちに関与できる手作り感を醸し出すことが大事
- 長町商店街まちづくり憲章の要素を、時代にマッチした形で表現することも大事
- 各ゾーンの名称は、イメージ図を具体化させてから考えてもよいだろう